

《原 著》

骨転移マーカーとしての血清 I 型コラーゲン C 末端テロペプチド (ICTP) の予後推定因子の可能性について

八木 安生* 米田 充* 岡田 雅邦* 尾本 篤志*
中村 充男*

要旨 緩和ケア病棟入院患者 126 名を対象に血清 I 型コラーゲン C 末端テロペプチド (ICTP) を測定し、骨転移の有無により 2 群に分け ICTP の臨床的意義について検討した。1) 骨転移のない癌患者において ICTP とクレアチニン・クリアランス (Ccr) の間には $ICTP = -22.6 \text{Log}_e(Ccr) + 111.4$ ($r = 0.63$, $p < 0.01$) の関係を認め、腎機能の悪化とともに ICTP は上昇した。2) Ccr が $40 \text{ ml/min/1.73 m}^2$ 以上と腎機能低下を認めない癌患者において、骨転移群が、骨転移のない群に比し ICTP は有意に高値を示した。3) 死亡退院した癌患者において、ICTP は、骨転移の有無に関わらず両群とも高値であり有意差を認めなかった。また、骨転移のない群では罹病期間が骨転移群に比し有意に短かった。以上より、ICTP は骨転移の指標ではあるが、ICTP の高値には腎機能をはじめ種々の要因が関与していると共に予後推定因子としての可能性が考えられる。

(核医学 39: 485-491, 2002)